

## 考え方9 FISIMの実質化

### 添付資料9-1

FISIMの実質化 (第3回委員会、資料5, p6)

### 添付資料9-2

FISIMの実質化(および配分方法) (第1回懇談会、  
資料1, p6)



### 3. FISIM の実質化

#### (1) FISIM の実質化の考え方

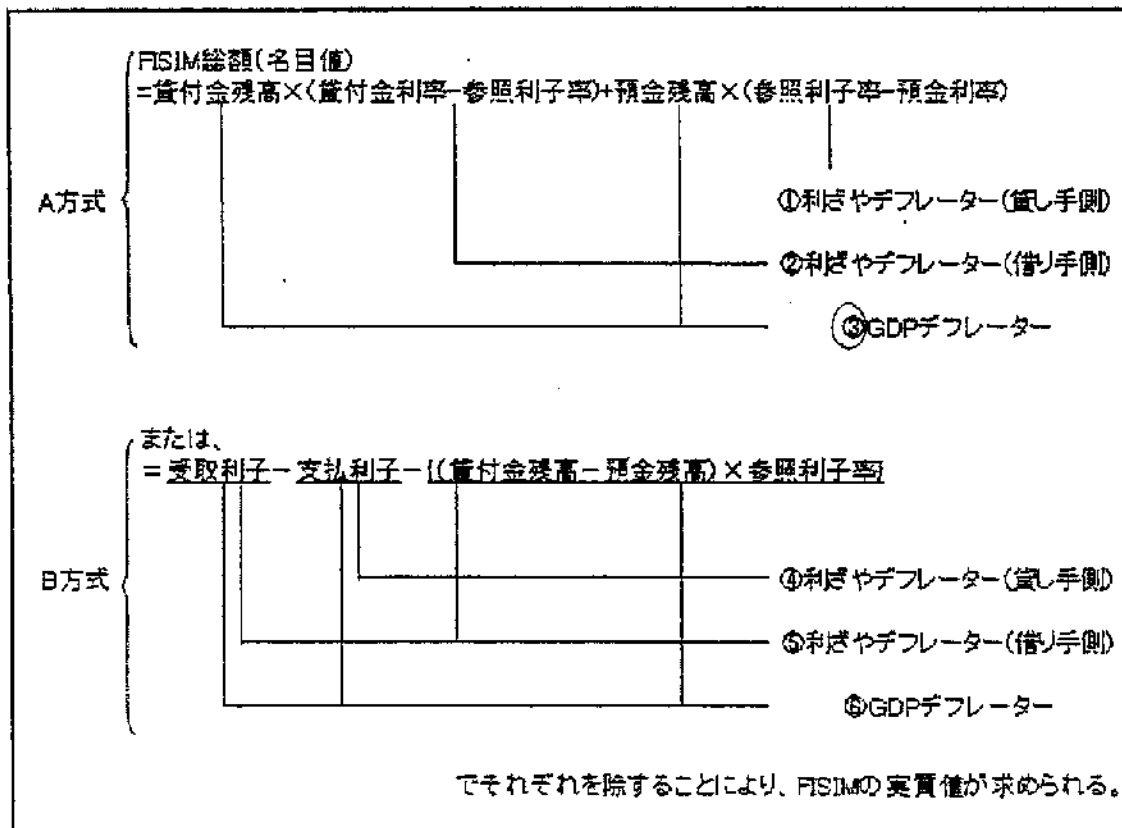
- ① 残高デフレーターと利ざやデフレーターを使用することにより物価変動要因及び金利変動要因を除去することで、預金・貸付金残高の変動要因に限った FISIM への影響をみる。
- ② 計算式については、EUROSTAT、臺灣は以下のとおりであり、我が国でも同様の手法を用いて試算を行っている。
- ③ ただし、残高デフレーターに関しては各国の対応は異なる。我が国では GDP デフレーターの使用を考えているが、EUROSTATでは国内需要デフレーター、臺灣では GPI デフレーターを簡便的に使用している。

・利ざやデフレーター(借り手)

$$= \text{比較年度}(\text{貸付金利率} - \text{参照利子率}) / \text{基準年度}(\text{貸付金利率} - \text{参照利子率})$$

・利ざやデフレーター(貸し手)

$$= \text{比較年度}(\text{参照利子率} - \text{預金利率}) / \text{基準年度}(\text{参照利子率} - \text{預金利率})$$



(邦国FISIM委)

③ 5-6

(2) 計算例(A方式)

①前提(X年度を基準年とする)

|      | FISIM 総額(名目) | 貸付金利率   | 参照利子率        |
|------|--------------|---------|--------------|
| X年度  | 1,000        | 1.0%    | 0.5%         |
| Y年度  | 1,275        | 1.3%    | 0.6%         |
| 預金利率 | 貸付金残高        | 預金残高    | GDP デフレーター   |
| 0.1% | 120,000      | 100,000 | 1 (100.0)    |
| 0.3% | 135,000      | 110,000 | 1.01 (101.0) |

②Y年度 名目 FISIM 総額実質化

借り手、貸し手の利ざやデフレーターを求める。

ア. 利ざやデフレーター(借り手)  $(1.3\% - 0.6\%) / (1.0\% - 0.5\%) = 1.4 (140.0)$

イ. 利ざやデフレーター(貸し手)  $(0.6\% - 0.3\%) / (0.5\% - 0.1\%) = 0.8 (80.0)$

A方式の式を利用

$$(135,000 / 1.01) * (1.3\% - 0.6\%) / 1.4 + (110,000 / 1.01) * (0.6\% - 0.3\%)$$

= 1.104 (小数第一位を四捨五入)

(以上)

し、この率にはやはりリスクプレミアムが含まれている。

このため、この「金融仲介機関」と「金融機関」との間の取引の範囲での「調達側」と「貸出側」とのサービス量を同じくするところでリスクプレミアムを「ゼロ」と考えることができるか。

サービス量を等しくするという考え方は、加重平均によって求める考え方となる。

しかし、この「金融仲介機関」と「金融機関」との間の取引として新たに「運用側」の「受取利子」額と運用残高が必要となる。ここから求める「運用利率」と従来より求めていた「調達利率」をそれぞれの残高で加重平均して、新たな EU 準拠方式の「参照利率」を求める。ただし、この新たに求めようとしている「運用利率」の実際の計算が難しい場合は、EU 準拠方式とはならないが、b. の方法も考えられる。

b. 純粋な「参照利率はリスクプレミアムを排除されたもの」を求めるために、上記 a は「金融仲介機関」と「金融機関」との間の取引に着目したものであるが、この機関間の「運用側」の利率の計算が困難であれば実際の推計が難しい。

このため、EU 方式の「金融仲介機関」のインターバンク・レートの範囲外とはなるが、全体の取引の中での「貸出側」と「調達側」のサービス量を同じくするところでリスクプレミアムが「ゼロ」と考えることができる。サービス量を等しくするという考え方は、加重平均によって求める考え方となる。従来求めていた「運用利率」と「調達利率」をそれぞれの残高で加重平均して、新たな「参照利率」を求める。ただし、この方法は EU 準拠方式とは言えない。なお、この加重平均方式は、数年前に検討の対象となっていたことはあった。(第 1 回 FISIM 委員会資料(参考資料 P56))

#### 4. FISIM の実質化および配分方法

##### (1) 実質化のデフレーターについて

- 前回委員会で提案のあった林委員の実質化方式 (理論的に 2 回。デフレーターは 399 品目と 400 品目デフレーターをうけて、次のように再整理した。
- FISIM の実質化の考え方は、第 3 回資料 5 の p6~7 を参照。
- 検討対象箇所: 資料 5 の p6 での A 方式の式の「貸付残高」と「預金残高」に、「③ GDP デフレーター」を適用しようとしているが、この位置に相応しいデフレーターを検討する。
- FISIM を含む最終的なデフレーターを GDP デフレーターとよび、FISIM を含まない 399 品目 (仮に全品目を 400 品目とすれば 400 マイナス 1 で 399 品目) を統合したデフレーターを「GDP' (除 FISIM) デフレーター」と呼ぶこととする。これは「ア」のように表現できる。

ア: 「GDP' (除 FISIM) デフレーター」=  $\frac{\sum(399 \text{ 品目名目値})}{\sum(399 \text{ 品目実質値})}$

と表現できる。そして最後に、「GDP デフレーター」は「イ」のように表現できる。

イ: 「GDP デフレーター」

$$= \frac{[\text{FISIM 名目値} + \sum(399 \text{ 品目名目値})]}{[\text{FISIM 実質値} + \sum(399 \text{ 品目実質値})]}$$

と表現できる。なお、FISIM デフレーターを事後的にインプリシットに表現すれば「ウ」のようになる。

ウ:「FISIMデフレーター」 = FISIM 名目値 / FISIM 実質値

e. FISIMの実質値

エ. 上記ウで、FISIM 名目値(を「ウ1」と呼ぶ)は、第3回資料5の p6 のA式そのもので、貸出側 FISIM と調達側 FISIM の合計、さらにこれを分解して、「それぞれの側の残高にそれぞれの側の参照利子率との率差を乗じて求める」形に分解している。

オ. FISIM 実質値(を「ウ2」と呼ぶ)は、名目値(上記ウ1)の要素のそれぞれを、それぞれの要素に相応しいデフレーターで実質化した要素別実質値を合計することによって求める。

f. この時点で、次のことがより明らかとなってくる。上記FISIMデフレーターは残高要素デフレーターと金利差要素デフレーターを合成したデフレーターとなっており、その要素である貸付残高や調達残高部分を実質化するために用いる今回の課題「残高(貸付・調達)デフレーター」は一致しない。

g. 要素としての「貸付(又は調達)残高」を実質化するのに相応しいデフレーターには、むしろ最終的な「GDPデフレーター」は適当ではなく、FISIM 要素を排除したデフレーター、「GDP'(除 FISIM)デフレーター」の方がより相応しいデフレーターと言える。理由は以下のとおり。

h. 理由。

カ. 上述のように、FISIM デフレーターと、計算の要素である残高を実質化するためのデフレーターとは、参照利子率との金利差分だけ差がある。

従って、FISIM デフレーターとGDPデフレーターを収束計算することや、残高デフレーターと結果として求めるGDPデフレーターを収束計算すべき関係にはないと考える。

キ. 残高デフレーターに、FISIM 要素を含めないとする考え方。

調達資金残高、運用資産残高には金融機関向けの残高は相殺されて「ゼロ」となっていると考えられる。FISIM 要素を入れない方がよいと考えられる。

(以上)

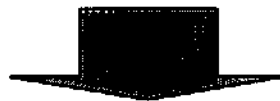
制度部門別貸し手FISIM消費額(2000年度、名目)

(単位:百万円)

|            |            |
|------------|------------|
| 金融機関       | 777,596    |
| 内FISIM対象機関 | 282,695    |
| ①その他の金融機関  | 494,901    |
| ②非金融法人     | 1,625,122  |
| ③一般政府      | 1,979,084  |
| ④家計        | 6,957,287  |
| 内消費者家計     | 5,548,423  |
| 内家計企業      | 1,408,864  |
| ⑤対家計民間非営利  | 196,782    |
| 国内消費額合計    | 11,535,872 |
| 内最終消費      | 7,724,289  |
| 内中間消費      | 3,811,582  |

GDPデフレーター(年度、固定)<sup>年(1959=100.0)</sup> 95.5  
 調達利鞘(参照利子率-調達利子率) 0.576588229871218%  
 基準年度利鞘(1995年度) 0.430548161444905%

名目値(=調達残高\*調達利鞘)\*(基準年利鞘/比較年度利鞘)\*(100/GDPデフレーター)



|            |           |
|------------|-----------|
| 金融機関       | 608,005   |
| 内FISIM対象機関 | 221,040   |
| ①その他の金融機関  | 386,964   |
| ②非金融法人     | 1,270,687 |
| ③一般政府      | 1,547,451 |
| ④家計        | 5,439,920 |
| 内消費者家計     | 4,338,326 |
| 内家計企業      | 1,101,594 |
| ⑤対家計民間非営利  | 153,864   |
| 国内消費額合計    | 9,019,927 |
| 内最終消費      | 6,039,641 |
| 内中間消費      | 2,980,286 |

## 1. FISIM推計のためのGDPデフレーター作成

- ①名目のFISIM産出額を求める。
- ②残高をGDPデフレーター、利鞘部分を利鞘デフレーターによりFISIM産出額の実質値を求める。
- ③FISIM抜きの実質GDPに実質FISIMを加える(1回計算)。
- ④FISIM含む名目GDPとFISIM含む実質GDPにより、新たなGDPデフレーターが得られる。このGDPデフレーターを基に②③の作業を行う(2回計算)。
- ⑤②～④を最大変化が0.001になるまで繰り返す(収束計算)。

## 2. GDPデフレーターの変化

|         | 1995年度      | 変化(②-①、③-②) |
|---------|-------------|-------------|
| 1回計算(①) | 99.8        |             |
| 2回計算(②) | 99.80149022 | 0.001490225 |
| 収束計算(③) | 99.80150849 | 0.000018263 |

| 2000年度      | 変化(②-①、③-②) | 2001年度      | 変化(②-①、③-②) |
|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 95.5        |             | 94.3        |             |
| 96.18848479 | 0.688484789 | 95.35680227 | 1.056802273 |
| 96.19508367 | 0.006598884 | 95.36811157 | 0.011309296 |

| 1回計算(①) |
|---------|
| 2回計算(②) |
| 収束計算(③) |

| 2002年度      | 変化(②-①、③-②) | 2003年度      | 変化(②-①、③-②) |
|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 92.7        |             | 90.5        |             |
| 93.63089042 | 0.93089042  | 91.23938851 | 0.739388506 |
| 93.6451571  | 0.014266677 | 91.25037005 | 0.010981542 |



GDPデフレーターへの投入回数による計数変化について(単位:10億円、%)

1. 結果～1回計算～

|                | 1995年度    | 2000年度    | 2001年度    | 2002年度    | 2003年度    |
|----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 実質GDP(FISIM込み) | 507,118.2 | 543,025.0 | 537,070.2 | 544,931.8 | 562,848.9 |
| 前年比            | 2.5       | 2.5       | -1.1      | 1.5       | 3.3       |

| FISIMによる | 1995年度  | 2000年度  | 2001年度  | 2002年度  | 2003年度  |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 実質GDP増加額 | 6,139.6 | 5,155.3 | 5,686.6 | 8,225.5 | 8,237.2 |
| 対実質GDP比率 | 1.2     | 0.9     | 1.1     | 1.5     | 1.5     |

2. 結果表～2回計算～

|                | 1995年度    | 2000年度    | 2001年度    | 2002年度    | 2003年度    |
|----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 実質GDP(FISIM込み) | 507,118.1 | 542,988.2 | 537,007.2 | 544,849.7 | 562,781.9 |
| 前年比            | 2.4       | 2.5       | -1.1      | 1.5       | 3.3       |

| FISIMによる | 1995年度  | 2000年度  | 2001年度  | 2002年度  | 2003年度  |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 実質GDP増加額 | 6,139.5 | 5,118.5 | 5,623.6 | 8,143.4 | 8,170.2 |
| 対実質GDP比率 | 1.2     | 0.9     | 1.0     | 1.5     | 1.5     |

3. 結果表～収束後～

|                | 1995年度    | 2000年度    | 2001年度    | 2002年度    | 2003年度    |
|----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 実質GDP(FISIM込み) | 507,118.1 | 542,987.7 | 537,006.5 | 544,848.8 | 562,781.2 |
| 前年比            | 2.4       | 2.5       | -1.1      | 1.5       | 3.3       |

| FISIMによる | 1995年度  | 2000年度  | 2001年度  | 2002年度  | 2003年度  |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 実質GDP増加額 | 6,139.5 | 5,118.0 | 5,622.9 | 8,142.5 | 8,169.5 |
| 対実質GDP比率 | 1.2     | 0.9     | 1.0     | 1.5     | 1.5     |

4. 差額～(2回計算-1回計算)～

|                | 1995年度 | 2000年度 | 2001年度 | 2002年度 | 2003年度 |
|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 実質GDP(FISIM込み) | -0.1   | -36.8  | -62.9  | -82.1  | -67.0  |
| 前年比            | -0.0   | -0.0   | -0.0   | -0.0   | 0.0    |

| FISIMによる | 1995年度 | 2000年度 | 2001年度 | 2002年度 | 2003年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 実質GDP増加額 | -0.1   | -36.8  | -62.9  | -82.1  | -67.0  |
| 対実質GDP比率 | -0.0   | -0.0   | -0.0   | -0.0   | -0.0   |

5. 差額～(収束後-2回計算)～

|                | 1995年度 | 2000年度 | 2001年度 | 2002年度 | 2003年度 |
|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 実質GDP(FISIM込み) | -0.0   | -0.5   | -0.8   | -1.0   | -0.8   |
| 前年比            | -0.0   | -0.0   | -0.0   | -0.0   | 0.0    |

| FISIMによる | 1995年度 | 2000年度 | 2001年度 | 2002年度 | 2003年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 実質GDP増加額 | -0.0   | -0.5   | -0.8   | -1.0   | -0.8   |
| 対実質GDP比率 | -0.0   | -0.0   | -0.0   | -0.0   | -0.0   |



## 考え方10 FISIMの公表の仕方(表章)

添付資料10-1

FISIMのSNAへの計上 (第4回委員会、資料6, p1)

添付資料10-2

FISIMの公表 (第6回委員会、資料, p )



**資料6**

「FISIMのSNAへの計上について」の対比表のイメージ

[1] FISIMをSNAの本体系に導入する場合

|              |   | (1) 現行 | (2) FISIM | (3) 差 ((2)-(1)) | (4) 備考欄<br>課題 |
|--------------|---|--------|-----------|-----------------|---------------|
| 各勘定<br>制度部門別 | 各項目<br>ごとに<br>計数に差が<br>出るところを<br>ピックアップ |        |           |                 |               |
|              |   |        |           |                 |               |
|              |   |        |           |                 |               |
|              |   |        |           |                 |               |
|              |   |        |           |                 |               |
|              |   |        |           |                 |               |

1. FISIM導入により影響を受ける表は相当数にのぼる。
2. 推計対象年は、推計を最大限行うとしても、日銀の資金循環表統計等の資料の制約を受けて1980年以降に限られる。

( [2] FISIMをSNAの参考系列とする場合 )

# SNAへの計上

生産勘定

|       |
|-------|
| 生産額   |
| 中間投入額 |
| 付加価値  |
| 雇用者報酬 |
| 営業余剰  |

帰属利子

|     | 欄外処理<br>調整 | 調整後  |
|-----|------------|------|
| K95 | 0          | K95  |
| 0   | K95        | △K95 |
| K95 | △K95       | 0    |
| K95 | △K95       | 0    |

FISIM

|     |
|-----|
| F90 |
| F70 |
| F20 |
| F20 |

↓

## 制度部門別所得支出勘定

### 2所得の発生勘定

### 3第一次所得の配分勘定

1. 営業余剰

2. 雇用者報酬

3. 生産・輸入品に課される税

4. 補助金

5. 財産所得

(1) 利子

(2) 法人企業の分配所得

a. 配当

b. 準法人企業からの引き出し

(3) 海外直接投資に関する再投資収益

(4) 保険契約者に帰属する財産所得

(5) 賃貸料

6. 第1次所得バランス(純)

  第1次所得バランス(総)

### 4第一次所得の配分勘定

1. 第1次所得バランス(純)

  第1次所得バランス(総)

2. 所得富等に課される経常税

3. 社会負担

(1) 現実社会負担

(2) 帰属社会負担

4. 現物社会移転以外の社会給付

5. その他の経常移転

6. 可処分所得(純)

  可処分所得(総)

[黒塗り]

[黒塗り]

F60

[黒塗り]

[黒塗り]

[黒塗り]

5現物所得の再分配勘定

1.可処分所得(純)

可処分所得(総)



2.現物社会移転

3.調整可処分所得(純)

調整可処分所得(総)



6所得の使用勘定

(1)可処分所得の使用勘定

1.可処分所得(純)

可処分所得(総)



2最終消費支出

(1)個別消費支出  
(2)集合消費支出



3.年金基金年金準備金の変動

4.貯蓄(純)

貯蓄(総)



5經常対外収支

(2)調整可処分所得の使用勘定

1.調整可処分所得(純)

調整可処分所得(総)



2最終消費支出

(1)個別消費支出  
(2)集合消費支出

3.年金基金年金準備金の変動

4.貯蓄(純)

貯蓄(総)



5經常対外収支

7資本勘定

1.貯蓄(純)



2經常対外収支

3総固定資本形成

4(控除)固定資本減耗

5在庫品増加

6土地の購入

7資本移転等(受取)

8資本移転等(支払)

9貯蓄投資差額

10貯蓄・資本移転による正味資産の変動



# 記録の比較

## <1>帰属利子方式

|      |       | 中間需要 |     |       |        | 計   | 最終需要 |  |     | 生産額 |
|------|-------|------|-----|-------|--------|-----|------|--|-----|-----|
|      |       | 製造業  | 金融  | サービス業 | 国外帰属利子 |     |      |  | 計   |     |
| 中間投入 |       |      |     |       |        |     |      |  |     |     |
|      | 中間投入計 |      |     |       | K95    |     | K0   |  | K95 |     |
| 付加価値 |       |      | K95 |       | △K95   |     |      |  |     |     |
| 生産額  |       |      | K95 |       | K0     | K95 |      |  |     |     |

(注) 実際のT-O表では帰属利子の消費先を各産業の中間消費としている。  
ここではSNAの帰属利子処理を、T-O的フレームに当てはめている。

## <2>FISIMの導入による「増減」

|      |           | 中間需要 |     |       |     | 計   | 最終需要 |     |     | 生産額 |
|------|-----------|------|-----|-------|-----|-----|------|-----|-----|-----|
|      |           | 製造業  | 金融  | サービス業 |     |     |      |     | 計   |     |
| 中間投入 | FISIM(金融) | F25  | F30 | F15   |     |     |      |     |     |     |
|      |           |      |     |       | F70 | F18 | F2   | F20 | F90 |     |
| 付加価値 |           | △F25 | F60 | △F15  |     |     |      |     |     |     |
| 生産額  |           |      | F90 |       | F90 |     |      |     |     |     |



10. 公表の仕方

(対応11) FISIM の推計値が必ずしも長期で推計できていないこと等から、「参考系列」による公表もやむを得ないとしたい。

(1) FISIM の導入

FISIMの導入により、「金融サービス」算出額が従来の帰属利子方式によるものとの間にか  
 かなりの差が生ずる可能性があります。また、FISIM は一般の商品と同じ扱いとなることから  
 GDP や GDE にも影響することとなる。

(2) 参考、海外(EU 諸国)の導入予定時期

資料 参照

(3-1) 表章形式

図表 8.1 金額

|      | GDP | GDP(FISIM含む) | 差額 |
|------|-----|--------------|----|
| 1999 |     |              |    |
| 2000 |     |              |    |
| 2001 |     |              |    |
| 2002 |     |              |    |
| 2003 |     |              |    |
| 2004 |     |              |    |

図表 8.2 伸び率

|      | GDP | GDP(FISIM含む) | 差額 |
|------|-----|--------------|----|
| 1999 |     |              |    |
| 2000 |     |              |    |
| 2001 |     |              |    |
| 2002 |     |              |    |
| 2003 |     |              |    |
| 2004 |     |              |    |

図表 8.3 詳細

|           |     | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 |
|-----------|-----|------|------|------|------|------|------|
| 国内産出額     | 借り手 |      |      |      |      |      |      |
|           | 貸し手 |      |      |      |      |      |      |
| 輸出額       | 借り手 |      |      |      |      |      |      |
|           | 貸し手 |      |      |      |      |      |      |
| 輸入額       | 借り手 |      |      |      |      |      |      |
|           | 貸し手 |      |      |      |      |      |      |
| 国内消費額     | 借り手 |      |      |      |      |      |      |
|           | 貸し手 |      |      |      |      |      |      |
| 制度部門別消費額  | 借り手 |      |      |      |      |      |      |
|           | 貸し手 |      |      |      |      |      |      |
| 金融機関      | 借り手 |      |      |      |      |      |      |
|           | 貸し手 |      |      |      |      |      |      |
| 非金融法人     | 借り手 |      |      |      |      |      |      |
|           | 貸し手 |      |      |      |      |      |      |
| 一般政府      | 借り手 |      |      |      |      |      |      |
|           | 貸し手 |      |      |      |      |      |      |
| 家計        | 借り手 |      |      |      |      |      |      |
|           | 貸し手 |      |      |      |      |      |      |
| 内消費者家計    | 借り手 |      |      |      |      |      |      |
|           | 貸し手 |      |      |      |      |      |      |
| 内家計企業     | 借り手 |      |      |      |      |      |      |
|           | 貸し手 |      |      |      |      |      |      |
| 対家計民間非営利  | 借り手 |      |      |      |      |      |      |
|           | 貸し手 |      |      |      |      |      |      |
| 対政府       | 借り手 |      |      |      |      |      |      |
|           | 貸し手 |      |      |      |      |      |      |
| 対金融機関     | 借り手 |      |      |      |      |      |      |
|           | 貸し手 |      |      |      |      |      |      |
| 対非金融法人    | 借り手 |      |      |      |      |      |      |
|           | 貸し手 |      |      |      |      |      |      |
| 対一般政府     | 借り手 |      |      |      |      |      |      |
|           | 貸し手 |      |      |      |      |      |      |
| 対家計       | 借り手 |      |      |      |      |      |      |
|           | 貸し手 |      |      |      |      |      |      |
| 対内消費者家計   | 借り手 |      |      |      |      |      |      |
|           | 貸し手 |      |      |      |      |      |      |
| 対内家計企業    | 借り手 |      |      |      |      |      |      |
|           | 貸し手 |      |      |      |      |      |      |
| 対対家計民間非営利 | 借り手 |      |      |      |      |      |      |
|           | 貸し手 |      |      |      |      |      |      |

中間消費 = 金融機関 + 非金融法人 + 内家計企業  
 最終消費 = 一般政府 + 消費者家計 + 対家計民間非営利

(3-2). 計算

7-(2)で示した計算により、FISIM 産出総額(図表 10.1)を求める。

<10+8>

図表 10.1

|                    | 2000年度        | 2001年度        | 2002年度        | 2003年度        |
|--------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| ① 運用資産残高平準(国内ベース)  | 1,655,528,000 | 1,805,840,000 | 1,525,951,950 | 1,451,964,900 |
| ② 受取利子(国内ベース)      | 48,951,376    | 43,324,539    | 38,873,370    | 35,260,787    |
| ③ 運用利回り            | 2.957%        | 2.696%        | 2.548%        | 2.428%        |
| ④ 調達資産残高平準(国内ベース)  | 1,963,268,400 | 1,908,850,600 | 1,817,514,250 | 1,754,972,150 |
| ⑤ 支払利子(国内ベース)      | 35,903,254    | 27,108,693    | 21,039,223    | 18,372,823    |
| ⑥ 調達利回り            | 1.829%        | 1.420%        | 1.158%        | 1.047%        |
| ⑦ 調達残高平準           | 787,905,650   | 741,550,200   | 679,143,400   | 636,014,750   |
| ⑧ 支払利子             | 18,487,741    | 15,567,978    | 13,287,453    | 11,481,762    |
| ⑨ 調達利回り            | 2.346%        | 2.113%        | 1.957%        | 1.804%        |
| ⑩ FISIM産出総額        | 20,269,058    | 22,577,509    | 23,542,525    | 22,358,033    |
| ⑪ 借り手(運用)          | 10,105,388    | 9,611,810     | 9,020,093     | 9,048,930     |
| ⑫ 貸し手(調達)          | 10,163,671    | 12,965,699    | 14,522,432    | 13,309,103    |
| ⑬ (参考)現行通算利子       | 23,384,852    | 26,298,841    | 26,690,314    | 25,852,521    |
| ⑭ (参考)現行通算利子-FISIM | 3,115,384     | 3,721,332     | 3,147,789     | 3,494,488     |

図表 10.2 集計概要

| 式                  |           | 項目の集計概要  |
|--------------------|-----------|--|
| ① 運用資産残高平準(国内ベース)  | ①         | 資金管理統計より、FISIM対象機関である銀行等、郵便貯金、公的金融機関、ファイナンス会社、ディーラー・ブローカー(証券会社分除く)の預金・貸出・金融債の資産項目を抽出し、本店設定(P/L)に反映されないためおよび日額(別途集計するため)との取引分を控除している。 |
| ② 受取利子(国内ベース)      | ②         | FISIM対象機関の財務諸表および推計により、FISIM対象商品にかかる受取利子を抽出し、国内ベースに交換(財務諸表は事業所ベースのため)。   |
| ③ 運用利回り            | ③=②/①     | -  |
| ④ 調達資産残高平準(国内ベース)  | ④         | 資金管理統計より、FISIM対象機関である銀行等、郵便貯金、公的金融機関、ファイナンス会社、ディーラー・ブローカー(証券会社分除く)の預金・貸出・金融債の負債項目を加算し、本店設定(P/L)に反映されないためおよび日額(別途集計するため)との取引分を控除している。 |
| ⑤ 支払利子(国内ベース)      | ⑤         | FISIM対象機関の財務諸表および推計により、FISIM対象商品にかかる支払利子を抽出し、国内ベースに交換。   |
| ⑥ 調達利回り            | ⑥=⑤/④     | -  |
| ⑦ 調達残高平準           | ⑦=⑥/⑤     | 資金管理統計および推計により、FISIM対象機関の金融機関からのFISIM対象商品での調達残高を把握。  |
| ⑧ 支払利子             | ⑧         | FISIM対象機関の財務諸表および推計により、金融機関からのFISIM対象商品での調達にかかる利子を抽出し、国内ベースに交換。  |
| ⑨ 参照利子率            | ⑨=⑧/⑦     | 金融仲介機関が金融機関からFISIM対象商品で調達した時の利子率   |
| ⑩ FISIM産出総額        | ⑩=①+⑧     | -  |
| ⑪ 借り手(運用)          | ⑪=①*(⑨-⑧) | -  |
| ⑫ 貸し手(調達)          | ⑫=④*(⑨-⑧) | -  |
| ⑬ (参考)現行通算利子       | ⑬         | -  |
| ⑭ (参考)現行通算利子-FISIM | ⑭=⑬-⑩     | -  |

10.5 配分

7-(4),(5)で示したように FISIM で把握した借り手側、貸し手側の FISIM 産出総額 を FISIM' 構成比で各制度部門に配分する。2000 年度の貸し手側を例とすると、図表 10.1 でも求めた貸し手側 FISIM: 10,163,671 百万円を図表 10.3 の比率で配分する。その結果が図表 10.4 である。

☆計数は FISIM' に合わせる。

図表 10.3

預金・金融債資産平残

単位:百万円  
2000年度

|            | 2000年度        | 比率     |
|------------|---------------|--------|
| 金融機関       | 463,520,350   |        |
| 内FISIM対象機関 | 415,114,600   |        |
| ①内その他の金融機関 | 48,405,750    | 10.4%  |
| ②非金融法人     | 169,236,700   | 14.4%  |
| ③一般政府      | 208,950,050   | 17.9%  |
| ④家計        | 729,687,250   | 62.3%  |
| 内消費者家計     | 581,525,917   |        |
| 内家計企業      | 148,161,333   |        |
| ⑤対家計民間非営利  | 20,638,000    | 1.8%   |
| ①~⑤計       | 1,176,917,750 | 100.0% |

FISIM 対象機関には貸し手側の輸入 FISIM を配分する。

図表 10.4

制度部門別貸し手FISIM消費額(名目)

単位:百万円  
2000年度

|                  |            |
|------------------|------------|
| 金融機関             |            |
| 内FISIM対象機関       |            |
| ①内その他の金融機関       | 418,024    |
| ②非金融法人           | 1,461,501  |
| ③一般政府            | 1,804,459  |
| ④家計              | 6,301,461  |
| 内消費者家計           | 5,021,964  |
| 内家計企業            | 1,279,497  |
| ⑤対家計民間非営利        | 178,226    |
| ①~⑤計             | 10,165,162 |
| ①~⑤計(輸出・輸入項目を含む) | 10,165,162 |
| ①~⑤計(輸出・輸入項目を除く) | 9,806,922  |

☆ 輸出、輸入項目を入れる。

☆ 右欄には構成比。

中間消費 = 金融機関 + 非金融法人 + 内家計企業

最終消費 = 一般政府 + 消費者家計 + 対家計民間非営利

(以上)